



事故車 余生はロシアで

中国系工場 格安工賃で修理

事故で壊れたり、水没して動かなくなった車の輸出台数が伸びている。普通の中古車に比べて価格が安く、修理すれば走れる。ロシアで人気が高まっているからだ。資源の再利用として注目される一方、事故車は「ゴミ」を隔てて販売する業者も後を絶たない。

薄暮、作業場の中で、中国人の従業員が、塗装が終わったばかりの車を黙々と拭き取っていた。

ロシア極東ウラジオストクの自動車修理工場には、10台ほどの中古車が並んでおり、一部がこみ、ヘッドライトもない。床には、ダッシュボードやドアなどの自動車部品が無造作に置かれている。中国人の経営者は片言のロシア語で、「これらはロシア人の中古車販売業者が日本から輸入した事故車。修理すれば新車みたいな」と笑った。

シャオ・リャン社長によると、市内には同じように事故車を修理する中国系の工場が100軒以上ある。この工場の作業員は10人ほど。給料は中国の通貨で支払われ、月8千元(約15万円)。勤務は午前9時から午前5時で、忙しければ24時間以上、続けば働かされる。

ロシア極東ウラジオストク



川崎港の集積場に並ぶ事故車。輸送中の揺れなどに備え、壊れた部分はテープで固定してある。川崎市で薄暗い修理工場の中に日本から輸入した事故車や水没した車が並んでいた。2014年12月10日、ウラジオストク、いずれも中川仁樹撮影

ただ問題は、ロシアなどで買った事故車を購入した業者が、事故車を隠して販売するケースがある。小さな傷ながら曲がったり、水没により電気系統が傷んだりした場合には、安全性が損なわれる心配がある。

中には、輸入関税から逃れるため、車を切断して「部品」として輸入後、再び接合し、「普通の車」として販売する業者もいる。ロシアのある販売業者は「車体番号のプレートや登録書類を、同じ種類の車に入れ替えば分らない」と明かした。こうした接合は車の安全性を大きく損なうため、ロシアでは禁止されている行為だ。

消費者側は、事故車と知らずに購入してしまうことを防ぐ取り組みを加速させている。ここ数年、車の購入契約前に検査場を持ち込み、車に問題がないかを検査してもらおう人が「かなり増えている」(ロシアの修理業者、こうら)。

(ウラジオストク＝中川仁樹)

年代後半から船員が手荷物扱いで格安の中古車を日本から持ち帰った。日本の中古車市場が定着した。その後、販売競争が激しくなり、約10年前から、仕入れ値が安く、利益率の高い事故車が増えきた。

中古車販売業のトップ「フェドトフさん」は2003年から事故車の買い付けを始め、多いときで20台を販売する。事故車の利益は、通常の中古車に比べて5倍にもなるという。例えば、通常の中古車の仕入れ値が約50万円なら、事故車は20万と半額以下になる。修理に使ったのは中国製の安い部品。正規のものに比べて耐久性などの品質はやや劣るが、見栄えは変わらないという。

修理する中国系の工場の中には、一眼光ビザで不法に入国した作業員もいる。「業界関係者」といわれ、修理代は、ロシア人の工場に比べて半額程度になるといわれる。原価の低い中古車が完成する仕組みができあがっている。

フェドトフさんも購入者には、事故車だと伝えない。車の隅から隅までチェックしてもらってから問題はないと話し、中国製などの安い部品が手に入りやすくなり、い

まや世界各地で、簡単に修理ができるようになった。そこに着目したのが、事故車輸出の大手「タウ」だ。野月平啓介物流部長は「車販売店や保険会社などから引き取り、傷の程度に応じて修復可能。部品利用、素材利用に分類し、資源を有効活用したい」。

タウによると、国内で年間、約117万台の事故車が発生し、うち約29万台が修復可能だ。2009年9月期の台数は、2万3千台から14年9月期には4万7千台に増え、このうち8割近くは輸出されている。とはいえ、いまは、ロシアだけでなく、経済発展が著しいアフリカや中南米にも出荷している。

資源の有効活用 増える輸出

「ワケあり」伝えないことも

日本の中古車市場では、事故車が増え、修理すればまた走れる車は人気がない。直せば使えても、保険会社や解体業者に引き取られ、解体されて、中古部品も鉄くずとして売られることも多い。

だが、富山の中古車輸出業者「インタナショナル」の社長は「日本の事故車は」

ただ問題は、ロシアなどで買った事故車を購入した業者が、事故車を隠して販売するケースがある。小さな傷ながら曲がったり、水没により電気系統が傷んだりした場合には、安全性が損なわれる心配がある。

中には、輸入関税から逃れるため、車を切断して「部品」として輸入後、再び接合し、「普通の車」として販売する業者もいる。ロシアのある販売業者は「車体番号のプレートや登録書類を、同じ種類の車に入れ替えば分らない」と明かした。こうした接合は車の安全性を大きく損なうため、ロシアでは禁止されている行為だ。

(ウラジオストク＝中川仁樹)

Tokyo Evening

2015年(平成27年) 3月4日 水曜日 夕刊

朝日新聞東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

朝日新聞

歴史がわかれば 城が楽しい

旅ハカセの Webコラム

日本の名城巡り

朝日新聞デジタルショッピング 検索

復興 変わりゆく故郷 4面

東日本大震災からまもなく4年になる。津波で母と実家をなくした写真家・島山直哉。この間、変わりゆく街を見続けてきた。

ごみ拾いをスポーツに 7面

街中に落ちているごみの種類ごとに点数をつけ、得点を競うごみ拾いが広がっている。参加者の意識が高まる効用もあるらしい。

消えゆく橋梁掘り続け 10面

北海道遺産にも指定されるタウシュバツ川橋梁。廃線後に残る鉄道橋で、崩壊が進む。消えゆく姿を毎日、掘り続ける男性がいる。

エコスポーツ	7面	小説	8面	円・株	6面
	8面	TV・ラジオ			6.12面

素粒

あの人もこの会
金銭業の献金は頂
は、ついでに回って
れと一知らぬこと
わが俺は都の丑
む。街中でも俗世
や小川。下鴨さん
代えられぬマイン
☆

ボードを見つめ
びを悟るのだから
ゲームが深い人気
算の美字で得意す